

「ミュージアム・ティーチャー（博物館教員）全員集合！！」開催結果概要

- 日時 2015年（平成27年）11月15日（日）14:00～15:50
- 場所 サイエンスアゴラ 2015 C会場（産業技術総合研究所臨海副都心センター別館）
11階 会議室 2/3
〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-7
- 趣旨 第1回「ミュージアム・ティーチャー ワークショップ」を開催したのは2008年2月のことである。学校の教育活動と博物館活動とを巧く連携させていこうとする活動は、博物館や学校に属する様々な立場の人々が各々の立場に応じた方法で進めているが、そのような人々の間でノウハウ共有などの情報交換は殆ど無かった。そこで「まず、つながろう」ということを当面の目標として開催したのが、このワークショップである。それから8年近くを経て、博物館教員を巡る状況も大きく改善され、「まず、つながろう」という当初目標は種々の形で実現されるに至っている。そこで、サイエンスアゴラ 2015（10周年記念年次総会）の機会を利用して、この8年間の活動を総括して今後への礎とし、この活動は「発展的解消」とするべく会合を開いた。
- 世話役 中村公一（大阪市立瀬田北中学校：もと滋賀県立琵琶湖博物館）
戸田 孝（滋賀県立琵琶湖博物館）
中山 迅（宮崎大学教育文化学部）
福松東一（宮崎県総合博物館）
- 参加者数 16名
但し、日程の都合等で中途退出した者があり、最後まで議論に参加したのは12名

最初に中村氏から、この集会の趣旨説明と8年間の経緯報告があった（約15分）。続いて中山氏から、最近では「アクティブラーニング」が流行しており「文脈」をどう捉えるかということが重視されているという報告があり、引き続いて福松氏から2011年2月のワークショップで「主題・対象・文脈」を意識した「質問カード」作りを行ったことの報告があった（併せて約20分）。これらの報告を呼び水とする形で、今回の集会での議論の対象とする「文脈」を規定するために、各参加者の博学連携への想いを一言で象徴する「キーワード」を決めて用意した紙に大書してもらい、そのキーワードについて各1分で発表してもらった（移行時間を含めて20分弱）。その結果、出たキーワードを以下のように3つのグループに分類した。

- 第1のグループ 「基礎データ」「使いやすい施設」「出会い」「放課後博物館」
- 第2のグループ 「創発」「ひろげる」「地域の力」「深化・導入」
- 第3のグループ 「お役立ちネタ」「有能感」「地域の自然」
「科学の面白さを伝える」

そして、同一グループに属する参加者は、今回の集会に参加するに際して興味を有する主題が近いものと考え、各グループで「博学連携」に関する思いを、特に結論を1つにまとめることを目標とせずに自由に語り合ってもらった（約35分）。その後、各グループでどのような話があったかを各々の代表1名に簡単に紹介してもらった（約20分）。

第1のグループで出た話題

最近駅前科学館が増えてきた

田舎でも近所の子供たちの居場所になる場所として機能するのは良いこと

先生にとっての溜り場になるのもよし

顔を知っている人が居る博物館というのはいいな

第2のグループで出た話題

博物館でこんなことが「あった、できた」という話し合い

親の意識をどう向けてもらうかが重要

博物館への通いやすさ（物理的および心理的に）

博物館で「質問しても良い」という感覚をここの議論で教わった

第3のグループで出た話題

教科書の話をつっかかりとして

地域の特性と教科書とのギャップをつなぐのも博物館の役割

「やらされた集団」……大人が介入しすぎて押し付けても良くない

相手を見て自分の固執に気づいて自分を広げていくことも重要

最後に中山氏に締めくくりの挨拶をしていただいて終了した。